

中原浩大 Drawings 1986-2012
コーちゃんは、ゴギガ？

2012年9月22日|土・祝| - 11月4日|日|
伊丹市立美術館

休館日＝月曜日〔ただし10月8日は開館、10月9日は休館〕

開館時間＝午前10時 - 午後6時〔入館は午後5時30分まで〕

主催＝伊丹市立美術館〔公益財団法人伊丹市文化振興財団・伊丹市〕

協賛＝JHI/EIDO 協力＝株式会社ノマル

伊丹市立美術館 ITAMI CITY MUSEUM OF ART

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前2丁目5番20号

TEL 072-772-7447 <http://www.artmuseum-itami.jp>

中原浩大《Right Hand-B》1996年

NAKAHARA Kodai Drawings 1986-2012
Ko-chan is "Go-gi-ga"?

September 22 - November 4, 2012
ITAMI CITY MUSEUM OF ART

Closed : Mondays (except Oct.8) and Oct.9

Open hours : 10:00am - 6:00pm (Last admission at 5:30pm)

Organized by Itami City Museum of Art (Itami Culture Foundation / Itami City)

Supported by JHI/EIDO Cooperated by Nomart, Inc.

ITAMI CITY MUSEUM OF ART

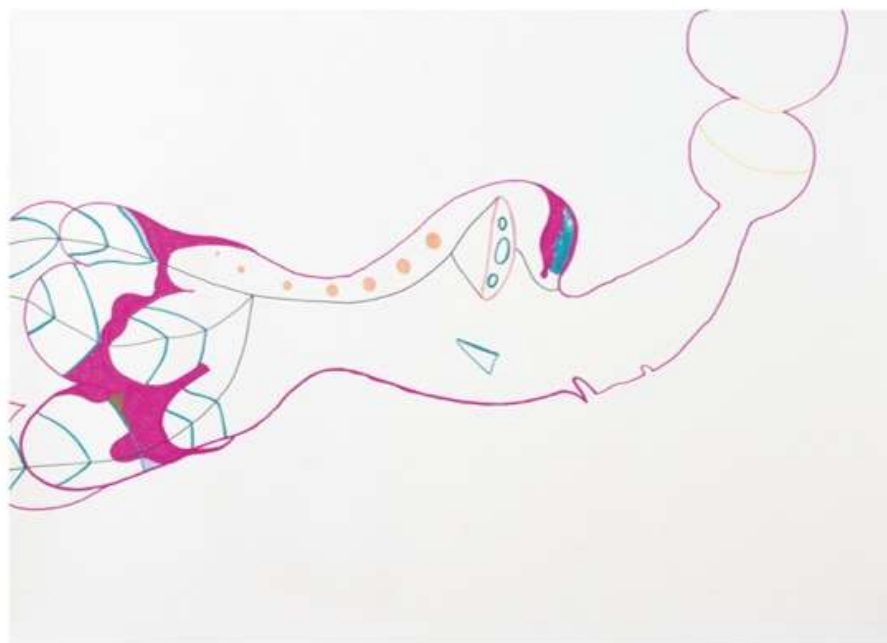
2-5-20 Miyanomae, Itami-city, Hyogo 664-0895 JAPAN

TEL 072-772-7447 <http://www.artmuseum-itami.jp>

NAKAHARA Kodai "Right Hand-B", 1996

中原浩大 Drawings 1986-2012

コーちゃんは、ゴギガ？



中原浩大(1961年生まれ)は、現代美術のなかでもひととき異彩を放つアーティストです。しかし、表現に対するストイックな姿勢ゆえに寡作となり、その実像はあまり知られていません。

1980年代半ば、大学在籍中から、「頭のなかのイメージをそのままざくとり出してきた」具象とも抽象ともつかない立体造形により、「関西ニューウェーブ」を代表する作家として注目を集めました。活躍の場は瞬く間に海外にまで広がり、1993年にはヴェニス・ビエンナーレのアベルト部門に選出されます。

時代の先駆者として駆け抜けた10年あまりの歳月。その間に発表された作品は、実に多種多様です。大理石やブロンズなど従来の彫刻素材によるもの、床を覆い尽くす毛糸の編み物、13万個ものレゴブロックを使った巨大モンスター、そしてアニメのフィギュアを用いた作品。これらはその革新性とともにも今なお語り継がれ、若手アーティストに多大な影響を与えています。

こうした創作活動の一方で、中原は綿々と「ドローイング」を続けてきました。日常のなかで引掛ったもの、響いたものをただ紙の上に描きとめるだけの、いわば中原自身が触媒と化する営み。それは本能に近い特別な存在として、作品制作とは別の次元に位置づけられています。「迫害や試練のないままのお絵描き」行為として温存し生き延びている」と自ら語るように、ドローイングには「生の感覚」を追い求める、原初的な中原浩大像が刻印されているのではないのでしょうか。

当館所蔵の最初期の作品を機に企画された本展では、新作を含め多数の未発表作品を紹介し、20年以上におよぶドローイング行為の全貌に迫ります。



【入館料】

一般 500[400]円 / 大高生 250[200]円 / 中小生 100[80]円

*[]は、団体割引料金 *無料観覧日 11月3日[土] (開館記念日/関西文化の日) *兵庫県内の子どもはココロ・カード、クローバー・カードなどの提示にて入場無料 *4市1町(伊丹市・川西市・宝塚市・三田市・篠原市)の高齢者割引有(平日は60歳以上、土日祝は65歳以上)

【関連企画】

ボディ・ドローイング

自分にドローイングするってどんなかんじ？

自分の体に思いのままに落書きしてみるワークショップです。

日時=2012年10月7日[日] 午後2時~4時

講師=中原浩大

会場=美術館1F講座室

自由参加[ただし席数に限りがあります]/参加無料[要観覧券]

対談「コーちゃんは、ゴギガ？」

学生時代から中原浩大を知る石原友明氏との対談。時代を牽引してきた二人が「ドローイング」について語り合います。

日時=2012年10月21日[日] 午後2時~3時30分

出演=石原友明[美術家]×中原浩大

会場=美術館1F講座室

定員=100名[先着順]/聴講無料[要観覧券]

(注)《ドローイング(ペンタイルカ-1)》制作年不詳(1992-94年頃) 作家蔵
(注)《ドローイング(ペンタイルカ-2)》制作年不詳(1992-94年頃) 作家蔵



伊丹市立美術館 ITAMI CITY MUSEUM OF ART

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前2丁目5番20号

TEL 072-772-7447 <http://www.artmuseum-itami.jp>

【交通のご案内】

○阪急伊丹駅より徒歩北東へ約9分

○JR伊丹駅より徒歩北西へ約6分

○阪急バス伊丹中央停留所より徒歩北へ約3分

*宮ノ前地下有料駐車場あり

中原浩大 Drawings 1986-2012

コーちゃんは、ゴギガ?

中原浩大(1961年生まれ)は、現代美術のなかでもひととき異彩を放つアーティストです。しかし、表現に対するストイックな姿勢ゆえに寡作となり、その実像はあまり知られていません。1980年代半ば、大学在籍中から、「眼のなかのイメージをそのままぐっと取り出してきた」具象とも抽象ともつかない立体造形により、「関西ニューウェーブ」を代表する作家として注目を集めました。活躍の場は瞬く間に海外にまで広がり、1993年にはヴェニス・ビエンナーレのアベルト部門に選出されます。

時代の先駆者として駆け抜けた10年あまりの歳月。その間に発表された作品は、実に多種多様です。大理石やブロンズなど従来の彫刻素材によるもの、床を覆い尽くす毛糸の編み物、13万個ものレゴブロックを使った巨大モンスター、そしてアニメのフィギュアを用いた作品。これらはその革新性とともにも今なお語り継がれ、若手アーティストに多大な影響を与えています。

こうした創作活動の一方で、中原は絶えず“ドローイング”を続けてきました。日常のなかで引掛ったもの、書いたものをただ紙の上に描きとめるだけの、いわば中原自身が触媒と化する営み。それは本能に近い特別な存在として、作品制作とは別の次元に位置づけられています。「迫害や試練のないままのお絵描き」行為として温存し生き延びている」と自ら語るように、ドローイングには「生の感覚」を追い求める、原初的な中原浩大像が刻印されているのではないのでしょうか。

当館所蔵の最初期の作品を機に企画された本展では、新作を含め多数の未発表作品を紹介し、20年以上におよぶドローイング行為の全貌に迫ります。



《カマキリ》1987年 伊丹市立美術館蔵

[入館料]

一般500[400]円／大高生250[200]円／中小生100[80]円

*[]は、団体割引料金 *無料観覧日 11月3日[土] (開館記念日／関西文化の日) *兵庫県内の子どもはココロ・カード、クローバー・カードなどの提示にて入場無料
*4市1町(伊丹市・川西市・宝塚市・三田市・墨江川町)の高齢者割引有(平日は60歳以上、土日祝は55歳以上)

[関連企画]

ボディ・ドローイング

自分にドローイングするってどんなかんじ?自分の体に思いのままに落書きしてみるワークショップです。

日時=2012年10月7日[日] 午後2時~4時/講師=中原浩大/会場=美術館1F講座室/自由参加[ただし席数に限りがあります]/参加無料[要観覧券]

対談「コーちゃんは、ゴギガ?」

学生時代から中原浩大を知る石原友明氏との対談。時代を牽引してきた二人が「ドローイング」について語り合います。

日時=2012年10月21日[日] 午後2時~3時30分/出演=石原友明(美術家)×中原浩大/会場=美術館1F講座室/定員=100名[先着順]/聴講無料[要観覧券]



[交通のご案内]

- 阪急伊丹駅より徒歩北東へ約9分
- JR伊丹駅より徒歩北西へ約6分
- 阪急バス伊丹中央停留所より徒歩北へ約3分
- *堂ノ前地下有料駐車場あり

伊丹市立美術館 ITAMI CITY MUSEUM OF ART

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前2丁目5番20号
TEL 072-772-7447
<http://www.artmuseum-itami.jp>